

県北大会

中学生にとって、中体連の県大会に出ることができたかどうか、一つのめやすになっているように思います。高校生なら、インターハイと呼ばれる全国大会でしょう。中学生の場合、東北大会さらには全国大会に出るといのは、特別なことです。出場できる枠（わく）が少ないのです。部活動の顧問をしていたときには、まずは県大会に出ることを考えていました。

県大会に出るためには、その予選にあたる県北大会で勝たなければなりません。福島支部だけでなく伊達支部と安達支部のチームや選手と試合をするようになります。練習試合や大会などで、対戦した経験があればいいのですが、県北大会で初めて対戦するようになる場合もあるでしょう。

相手がいることですから、相手がどんなチームや選手なのか、様子を見ることも必要です。しかし、それよりも大切なことは、自分たちのプレーをすることです。自分たちが得意な形で試合をすることです。最初からやることを決めて、それをやり続けることで勝つ試合もあります。

そうはいつでも、相手も必死です。自分たちのペースになることもあれば、相手のペースになることもあります。一進一退（いっしんいったい）の攻防（こうぼう）が繰り広げられます。そして、最後は気持ちでしょうか。何が何でも県大会に出るんだという強い気持ち、もう最後だから悔いの残らない試合をしようという気持ち、絶対に負けたくないという気持ち、強気で相手に向かっていく気持ちなどでしょうか。

自分が中学生のときの県北大会のことを今でも覚えています。何が何でも県大会に出たいという強い気持ちがあったわけではありません。しかし、“無心”というか、勝ち急ぐことなく、焦（あせ）らず粘（ねば）り強く試合をすることができました。その結果、勝っていきました。勝つたびに波に乗っていきました。

顧問のときには、県大会出場が決まる試合で、何度もドラマがありました。今でも、一番残っているのは、もっと勝たせることはできなかったのかという思いです。いつも予想もしない展開になりました。不思議と、地道にまじめに一生懸命取り組んできた選手が活躍してくれました。皆さんの部にも、そんな選手がいるでしょう。皆さんのドラマを楽しみにしています。